

創立50周年という節目を迎えた。16年度からスタートした3カ年中期経営計画が最終年度に入り、目標に掲げた新規事業への積極投資やコア事業の強化、成長に向けたインフラ整備に取り組み。東南アジアなど海外事業の拡大にも注力しながら収益基盤を固め、より強い企業体質を目指して経営のかじを取る。

—就任の抱負を。

「重仮設業界は社会基盤を支える重要な役割を担っている。顧客や特約店、協力企業に対する社員の誠実な対応ぶりを見て、信頼関係を大切にすする真面目な会社だという印象を持った。私自身もそうした姿勢を大事にし、信用第一の理念を継続していきたい。企業運営に当たっては、現場の労働災害撲滅に向けた安全対策を特に重視する。(前職の)丸紅では海外の案件を長く担当してきた。当時の人脈を生かし、海外事業を積極展開したい」

丸紅建材リース

くわやま しょうじ
桑山 章司氏

材工一式の受注体制強化

—事業環境をどう見ているのか。

「2020年東京五輪招致が決まった時は、すぐに多くの建設事業が動き出すと考えていたが、現実を見ると動きは鈍い。JR渋谷駅前など主要ターミナル駅の再開発事業

などは活発で、大手ゼネコンの受注状況は良好だが、重仮設業界にはまだプラスの影響が生じていない。本年度の下期から好影響が波及してくるのではないかと。五輪関連は新国立競技場など本格化する施設整備に対応できるよう、現地の省力化に貢献する材工一式の受注体制をより一層強化していく。顧客の声を大切にしたい。海外事業に対する考え

「これまでの経験から、海外での事業には、現地の情報を把握し、パートナー企業と良好な関係を築くことが重要だと感じる。それらを持つ丸紅と協力関係にあることは当然の大きな武器だ。当面はタイと中国に設置した合弁会社の足場を固めることに重点を置く。将来的には、大きな成

「長期にわたって会社に在籍し企業文化を継承していく『コアになる人材』と、土木工事の専門家など即戦力となる『プロフェッショナルな人材』、この二つの人材を求めている。彼らの能力を最大限に生かし、シナジー(相乗効果)を生み出したい。人口減少や少子高齢化で人材確保が困難になる中で、女性や中年といった人材の登用とともに、外国人の積極採用についても検討していく必要がある」と考えている。



新社長

1979年一橋大商学部卒、丸紅入社。2008年執行役員金属資源部門長代行、11年常務執行役員金属部門長を経て、15年4月からアセアン・南アジア統括兼アセアン支配人兼丸紅アセアン会社社長。京都府出身、62歳。趣味はゴルフ、散歩。「何事もバランスよく」がモットー。

(6月27日就任)